

第二次多摩市読書活動振興計画 有識者会議 令和6年度第二回 記録

日時：	令和6年10月30日（水）午後4時から6時まで
場所：	多摩市立中央図書館 2階 活動室1

<u>開会前</u>	
資料確認（当日配付資料:委員からの資料、事務局からの資料（八王子市・武蔵野市の図書館計画概要版））	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 委員作成資料の持ち込みについてのルールを提案したい。 <p>提案内容</p> <p>委員作成資料の持ち込みは可。資料に作成者名を記載。提出期限は会議3日前。</p> <p>資料はA4で4枚（両面2枚）まで。公開前提。</p>
委員長	意見がないため、事務局の提案の通りとする。

<u>1 第二・三回策定委員会 報告について</u>	
事務局	第二・三回での議題および主な意見について口頭で説明。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 策定委員会の会議資料は、今後どのような扱いをするのか。 事務局からの説明にあった「こわか条例」の正式名称は何か。略語は地域外の方は分からないと思うので、今後も丁寧な説明をお願いしたい。
事務局	策定委員会は非公開会議としているので、資料の公開予定はない。
委員	子若（こわか）条例の正式名称は「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」である。
委員長	策定委員会の意見も踏まえつつ、有識者会議の意見をまとめていきたい。

<u>2 第二次多摩市読書活動振興計画におけるアンケートの集計結果について</u>	
事務局	配付資料5-1「多摩市立図書館アンケート結果（一般）」、6「一般アンケートクロス集計について」、7-1「子どもたちへのアンケートについて」に沿って説明。
委員長	アンケート結果について簡単に紹介いただいた。事務局への確認だが、今回のアンケートは、この計画策定のために特別に実施したものか。
事務局	そうである。
委員長	包括的に詳細なことを聞いたアンケートである。自由記述欄からも、多くの関心が寄せられていることが分かった。アンケート内容の確認から質問を受け付けたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 貸出者数が来館者数に比べて伸びないことについて、3年前と昨年度の各館の利用状況を比べると、中央図書館の来館者数に対する貸出者数の比率が小さくなっている。今後計画を立てるうえで、中央図書館開設の影響についても考慮する必要がある。 蔵書が中央図書館に集約されたことで、地域館の冊数が減ったことが要因として考えられる。一様には評価しづらいが、計画策定にあたっては、開館前後の蔵書構成の変化も踏まえる必要があるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館の貸出者数は伸びているが、貸出者数と貸出数の伸びが同じ比率でないのは事実である。 来館者数の伸びから、居場所としての利用が中央図書館の特徴であると考えている。策定においては、各図書館の立地特性や特色も考慮した内容としたい。

副委員長	図書館協議会でアンケートに対し、一般アンケートの回答者年代が、60代以上が約54%、50代以上が約7割を占めていることを考慮する必要があるという意見が出た。また、このアンケートは有用なものであると思うが、内容を計画に盛り込むうえで、アンケートをどのように読み取り計画に盛り込んだのかを明記する必要があるという意見も出た。
委員長	以降の議論でアンケート結果に触れることもあるだろうが、アンケートそのものについての議論は以上とする。

3 計画の名称について	
事務局	配付資料11-1「計画の名称に対するご意見について」に沿って説明。
委員長	本来であれば8月の第二回会議で議論するはずだったが開催できなかったため、アンケートという形式で意見聴取した。しかし事務局とも話をしたが、この結果ですぐに名称を決定するのではなく、アンケートをもとにこの場で意見交換できればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、今日の有識者会議では名称をこの時期に決める趣旨を説明すると聞いていた。まずその説明をしてほしい。 ・全体スケジュールが変わったようだが、それについても説明してほしい。 ・一度の決定から覆らないという進行方法だと発言しづらいと思うので、すべての決定について「〇月〇日時点の合意事項」として、検討を進めるうえで必要に応じて適宜見直す方式が良いのではないかと考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この時期での検討理由について、事務局で今後まとめ作業をするうえで、ある程度名称として計画の方向性が決まっている必要があると考えているためである。 ・決定後の変更はあり得るが、大幅な変更の場合事務的に間に合わないこともあるので、部分的な変更に限ることもあり得る。 ・いずれにせよ有識者会議委員の総意が必要であると考えている。 ・スケジュールについては会議の最後に説明予定。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長という立場から発言をするならば、委員は自由に発言してもらっていいと考えている。 ・最終の期限は決まっているが、それまでの期間の変更はあってよいと思う。しかし第二回有識者会議が延期になった都合上、対面で議論できる機会は少ないので、その中でできる範囲で意見を取りまとめていきたい。会議出席者には積極的に発言いただきたい。
委員	アンケートには「図書館基本計画」と意見した。軽度の知的障害がある方にとっては、シンプルなものが最も分かりやすいと考える。中身は本文を読めばわかるので、総称として「図書館基本計画」が良いと考える。
事務局	様々な意見をいただいているが、名称は現時点で確定しなければいけないわけではない。
委員	骨子と内容が決まってから、それにふさわしい名称を改めて議論するのが良いと考える。
委員	図書館は「読書施設」としてしか機能していないのか、という疑問がある。図書館は今の時代、多様なサービスを求められていると感じている。読書は図書館サービスの柱ではあるが、事務局の報告にあったように、居場所としての機能が求められている実態からは、ただ読書のためではなく、様々な目的で図書館が利用されていることが明らかであり、それを考慮する必要がある。テレビ番組でも居場所としての図書館が取り上げられている状況である。それらを踏まえこれからの図書館サービスを位置づける必要があることを念頭に、骨子案の議論をする必要があると感じる。
委員長	本日は、委員それぞれのバックグラウンドをもとに話してもらっていいと思っている。それらの意見をまとめながら、最終的な有識者会議としての意見を提示できればと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会の場合では、これまで子どもの読書活動推進を中心に読書活動を進めてきたので、それを中心にするべきだという意見があったようだ。 ・計画名称に「多摩市立」とあると図書館の業務計画の色彩が強くなる。 ・計画名称に漢字が多く使用されていると親しみにくい印象がある。 ・図書館の事業計画としての色彩は薄く、親しみやすい計画名称にしてほしい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市と日野市は子ども計画を一般計画と別に策定しているが、八王子市は多摩市が今やろうとしているように子どもと一般を統合した計画を策定している。 ・計画名称について、読書活動振興計画、図書館計画、あるいは第三の案にするかの判断は、文言等が見えてきた時点で議論しても遅くないと考える。
委員長	八王子市はやわらかい表現をしている。そのような第三の意見が今後出てくることも十分に考えられる。一旦本件についてはここまでとし、引き続き名称を検討したい。

4 第二次多摩市読書活動振興計画の骨子案について	
事務局	<p>配付資料 9-1「体系図について(10.30版)」、10-1「骨子案に対するご意見について(10.30追加版)」に沿って説明。</p> <p>資料 9-1【基本的な考え方】6は、「基本方針(2)」については、『第三次多摩市子どもの読書活動推進計画』の三つの基本目標下にある14の施策を分類し、<u>五つの施策に整理</u>に訂正する。</p>
委員長	事務局から利用者懇談会の報告をお願いしたい。
事務局	<p>利用者懇談会(中央図書館、東寺方図書館)の意見報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者は中央図書館16名、東寺方図書館9名。 ・蔵書はアンケート結果と同様、力を入れてほしい。 ・市民協働イベントの決定・運営方法に疑問がある。 ・Wi-Fiを導入してほしい。 ・利用者懇談会は各館で開催してほしい。 ・地域館の存続やサービスについて明らかにしてほしい。 ・中央図書館開館後の今後の持続可能な運営について、全体での検証が必要。 ・計画がゴールではなく、計画をどう実現するかが重要。 ・計画策定についての資料を各館でも閲覧できるようにしてほしい。 ・地域館の館長兼務は大変ではないか。 ・図書館利用の敷居を下げ、本を読むことにとらわれず広く利用できるようにしてほしい。 ・レファレンス等の基本的な図書館サービスを固める必要がある。 ・中央図書館に資料が集まりすぎているのではないか。拠点館にすら新刊が少ない。 <p>障がい者サービス利用者懇談会(中央図書館)の意見報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者7名(当事者1名)。 ・障害福祉課などと連携した障がい者サービスの広報が必要。 ・既に利用登録している人への、サービス内容や機器の使い方などの広報を強化してほしい。 ・担当職員とボランティアの連絡体制の整備をしてほしい。
委員長	副委員長から図書館協議会の報告をお願いしたい。
副委員長	<p>図書館協議会としてではなく、委員個人としての意見であることを承知いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料12「各取り組みの詳細について(10.30版)」について、施策1-3「若年世代(19歳~30代)の図書館利用の促進」の取り組みに電子図書館の推進が挙げられているが、電子図

	<p>書館は若年世代の活用に留まらないため、別の施策として項目建ててよいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策2-5「小・中・高等学校への支援・連携」の取り組みに挙げられている教職員への働きかけについて、組織としての学校図書館との連携を記載してもよいのではないかと。 ・第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画に記載されている重点施策を、次期計画の指標ワードとして入れてもよいのではないかと。 ・施策4-1「各館の機能強化・運営体制の整備」の取り組みに「各館の特色をいかした運営」を追加してほしい。地域の人が集える地域館を目指し、垣根の低い地域の行政窓口の一つとしての機能も打ち出してほしい。 ・施策4-4「職員の専門性向上と研修体制の充実、情報共有の促進」の取り組みに、多文化への対応としてやさしい日本語研修も入れてほしい。
委員長	市民ボランティア連絡会の報告をお願いしたい。
委員	<p>第二回第三次子どもの読書活動推進市民ボランティア連絡会では、9月30日締め切りの有識者会議への意見をまとめるため、委員に骨子についての案を伺った。会議での検討内容については資料10-1に記載された通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア連絡会としての懸念は、連絡会についてである。計画は来年秋に決定予定だが、第三次多摩市子どもの読書活動推進計画とそれに関わる連絡会は今年度3月までとなっており、計画決定までの約半年間が空白期間となってしまう。しかしその期間中も子どもの読書の推進はそこで途絶えさせてしまってもいけないし、市民ボランティア連絡会が果たしてきた役割を継続する必要がある。 ・連絡会のあり方については各団体が持ち帰り、図書館に10月18日を締め切りとして意見を提出した。意見の大半は、きちんとした形式で連絡会を継続してほしいというものであった。
委員長	来年三月での連絡会終了について、現時点で事務局から補足はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・空白期間の発生は図書館としても望ましくないと考えている。新しい計画へ連絡会をどう盛り込むかは検討中である。 ・計画策定までの期間についての連絡会は、設置要綱に基づいて連絡会が設置されていることを考慮しながら、新規計画に切れ目なく引き継げるよう現在検討中である。
委員長	資料の8-1「骨子案概要版について（10.30版）」、9-1が意見交換の材料として分かりやすいかと思う。
事務局	資料8-1が取り組みの一覧、資料12が、資料8-1の下での具体的な取り組みの案である。これらを見ながら検討してほしい。
委員長	<p>まず全体の体系について確認したい。前回会議では構成を見直したほうが良いという意見があったが、今回新たに提案された体系はこの内容で良いか。これを確認したうえで、基本理念の表現、それぞれの基本方針について一つずつ意見を伺いたい。</p> <p>まずは基本理念について意見はあるか。</p>
委員	「市民の『読む』『知る』『学ぶ』を支援し、」とあるが、オーディオブックもあり、目の不自由な方もいるなかで「読む」と表現するのは、そのような方が疎外感を覚えないか懸念している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を推進することはキーワードである。 ・読書バリアフリーという言葉もあるので、「読む」という表現自体はそこまで変ではないと考える。
委員	目の見えない方でも、点字は「読む」という。人によって違うかもしれないが、中途失明の方でも「読む」という言葉が差別感に必ずしも繋がるとは限らないのではないかと。
委員	そのような人も含めた包括的な意味であると、一般的な方もわかるような記載があればよいと

	思う。
委員	「地域をつなげる」というと、地域をまたがった繋がりという意味にしか感じられない。今後の会議で検討する必要があると思う。
委員長	資料10-1にて基本理念への意見に対する回答として「『知の地域創造』は基本構想時から使用している」とあるが、この基本構想とは何か。念のため確認したい。
事務局	「多摩市立図書館本館再整備基本構想」のことである。
委員長	「知の地域創造」という言葉は、まだこなれておらず、その意図が十分に表現できていないのかもしれない。
委員	「地域をつなげる」は異質に感じる。他市に比べれば狭い多摩市において7館図書館があるなかで、それぞれ特色がある地域をつなげるという意味であれば納得がいく。基本理念に盛り込むべきかという議論はあるが、そのようなニュアンスを計画に盛り込めればよい。
委員長	基本構想のなかでも、地域で人々をつなげるという意味で使用されている。その表現をより良く変えていければと思う。この議論だけで時間がなくなってしまうので、「読む」「つなげる」については、表現を検討するというこでこの会議の共通理解としたい。
委員長	つづいて基本方針①「だれもがつかえる図書館」について検討したい。
委員	・施策1-2「図書館情報の発信及び情報入手支援」について、「情報入手支援」が何を指すのか分かりづらい。入手支援よりも、利活用支援のほうがふさわしい。 ・情報リテラシーの向上を目指す流れであると思う。現在の表現だと、単純な機器の利用のように感じられるが、情報をどう活用するかにウエイトをおいた表現がよい。
委員長	施策1-2に「情報入手支援」を追加した背景はあるのか。
事務局	図書館協議会より、電子図書館の利用についての項目があるとよいという意見があった。情報発信だけでなく情報を扱うための支援も必要だと思っているが、表現に改善の必要はあると思う。
委員長	広報不足についての意見はアンケートやこれまでの会議でもあった。一方で情報の利活用の部分も充実させる必要があり、これらを合体させたゆえに分かりづらくなってしまったのかもしれない。二つの目標を分ける必要があるのかもしれない。
委員	施策1-3「若年世代（19歳～30代）の図書館利用の促進」で19歳から若年世代と書くことに違和感がある。様々な世代のなかに中高生も含まれることを発信すべきではないか。
委員長	策定委員会から年代を明確にするよう指摘された結果だと思われる。
委員	19歳からと明記することに違和感を覚える。
委員	基本方針②「一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」での「子ども」が0歳から18歳を対象としているので、中高生については基本方針②で取り組むべきことだと思っている。その意味では、施策1-3で19歳からと書かれているのは正しいのではないか。
委員長	「だれもが」と表現している一方で若年世代を19歳と書いて狭めてしまうことが違和感の原因かと思う。一方基本方針②があるので違和感がないのは正しいと思う。その表現は考えたい。
委員	・施策1-1「だれもが利用しやすい環境の整備」と1-3を合体し、環境整備と図書館利用の促進にしてよいのではないか。方針が「だれもが」となっているなかで若年世代と記載することで、若年世代のみにフォーカスするようにとらえられてしまうのではないか。 ・若年世代という言葉は一般的に使用されているとは言いがたいのも難点である。
委員長	項目数の検討も含め、事務局に一度案を作ってもらいたい。 基本方針②の検討に移りたい。前回会議から3か所変更があったが、意見はあるか
委員	・基本方針②が第三次多摩市子どもの読書活動推進計画を引き継ぐ部分になると思う。施策2

	<p>－４「子どもに関わる人・団体・施設との協力・連携」に「人」は不要だと思う。これは個人ボランティアを排除する意味ではなく、第三次計画までの活動の中で、団体・施設との連携では学童クラブや児童館、保育園幼稚園等の様々な施設との連携を進めていた。施策２－４はそのような中身を入れるものであり、ボランティアについては別で記載するべきではないか。第三次計画のなかでもまだ推進が弱く、今後も継続していく必要がある内容であるため、「団体・施設」との協力としてほしい。ボランティアについては、おはなし会が取り組みに挙げられている施策２－１「本に親しむ機会の充実」や、施策４－３「ボランティア活動の促進」などで触れられると考える。再考してほしい。</p> <p>・第三次計画では施策５「蔵書の充実・活用」、７「学校図書館の整備及び機能の充実」、８「市立図書館の整備・機能の充実」、９「支援の必要な子どもたちへの取り組みの促進」、１０「担当職員による児童サービス・ティーンズサービスの充実」が重点施策であった。このうちいくつかは引き継ぐ必要があると考えている。</p>
委員長	第三次計画が本計画に統合されるなかで、内容が簡素化されることを懸念している。計画を引き継ぐことを明確にするのであれば、団体・施設との連携を進めたいという意見は理解した。
事務局	「人」を入れているが、細かな記載としては施策４－３の記載へ誘導する予定。子どもに対するものが分かりやすくなるよう、頭出しのみした。
委員長	図書館の意図としては、子ども向けサービスに関わる人については基本方針②に記載するべきというものだが、委員としては第三次計画を引き継ぐべきだという認識の違いが見えた。すぐには決定できないので預かりとしたい。
委員	乳児期からの活動があることを考えると、施策２－５「小・中・高等学校への支援・連携」の記載では乳児期から幼児期までがどこにいくか不明である。基本方針②では子ども全体について示してほしい。
委員長	幼稚園・保育園については施策２－４に含まれると考えているか、あるいは施策２－５の意図はどのようなものか、事務局に簡潔に説明してほしい。
事務局	施策２－５は以前「多摩市立小中学校への支援・連携」としていた。これは、市立小中学校へ特別な支援を行っているためである。幼稚園保育園については施策２－４に吸収すると考えている。議論のなかで、学校とそれ以外という形式がよいのではないかと考え、今回施策２－５についてはこの表現で提案している。
委員	幼稚園も保育園も、施設ではなく基本的に学校である。施策２－４に産婦人科のかっこ書きや乳児期からと記載されないと、「一人一人の子ども」といいながら排除されていえるように感じる。「団体・施設」と書かれているが、施設が何かもよく分からない。基本方針①のように年代別で記載して細かな内容があればいいが、現在の基本方針②の施策の書き方ではターゲットがすでに書かれている。
委員長	資料９－１の参考としている法律等の中に子どもの読書活動の推進に関する法律などがあるが、それらの体系との整合性を取りつつ、指摘があったように学校教育体系のなかで記載されていないものをどう表現するか、事務局への宿題としたい。
委員長	基本方針③「市民のしらべを支え、つながる図書館」について、委員からの意見がかなり取り入れられたようだが、意見はあるか。
委員	<p>・施策３－１「多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実」の取り組みは「レファレンスデータ公開登録件数の促進」ではなく「レファレンスデータ公開登録の促進」で良い。</p> <p>・施策３－４「地域資料等の活用による課題解決支援や地域文化の継承」の取り組みであるが</p>

	<p>デジタル化は保存ではなく利用のためであるので「保存、活用」の表現は不適切である。地域資料の積極的な収集整備をしたうえでデジタル化などを通じて活用するという趣旨にしてほしい。また地域文化の継承が何もうたわれていないので、その基本的な内容を記載しないと、施策名と中身が伴わないと考える。</p>
委員長	<p>取り組みについての意見をいただいた。今回は各施策の名称について検討しているが、今後具体的な取り組みを掲げるにあたり検討してほしい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針③の施策の並びが悪く、様々なものがバラバラになっている。資料収集についての記載がないことに加え、多様な資料と言いつつ電子資料と記載している。 ・各項目の内容は検討されたのだろうか、市民説明がしづらいのではないかと。
委員長	<p>基本方針③の表現は多摩市読書活動振興計画を引き継いでいるのか。</p>
事務局	<p>内容としては基本目標（３）「市民や地域に役立つ図書館」（４）「しらべるを支え、つながる図書館」を合体させたが、名称は（４）をそのまま引き継いでいる。</p>
委員長	<p>つづいて基本方針④「持続可能な管理・運営体制の充実と強化」について議論したい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策４－４「職員の専門性向上と研修体制の充実、情報共有の促進」の「情報共有の促進」が、何の情報共有か、誰と誰の情報共有かが分かりづらい。 ・施策４－５「利用者ニーズの把握」の表現だとニーズを把握して終わりのような印象を受ける。運営に活かすことを前提にしているのだろうか、把握の後にどうするのかを明記すれば分かりやすいのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・施策４－４の情報共有は、職員同士や図書館間のものを想定している。 ・施策４－５についてはいただいた意見を参考にしたい。
委員	<p>基本方針④「持続可能な」という表現が気になる。何を持続可能にしたいかを明確にするべきではないか。端的な記載をしたことで分かりづらくなっていると感じる。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の読書活動振興計画は、公共施設見直しと相まって策定された経緯があるものであることから、今も市民には計画策定というと図書館を減らすということかと認識されている。 ・多摩市の丘陵地帯を考えると今後も８館体制は維持していく必要がある。「持続可能な」と入れないと市の総合計画の施策にも沿っていかない。将来世代にサービスを届けることを管理運営上重視すべきという意図で「持続可能な」と意見した。 ・唐木田、東寺方の今後についての議論もあるなかで、運営の継続を図書館の意思として示すことは重要であると考えため、「持続可能な」の表現にはこだわってほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確認だが、資料１０－１の５７の意見「事務局案にある『管理の強化』の語感が強すぎるため、基本方針（４）の目的を追加し『すべての市民に均質なサービスを持続的に提供可能とする図書館の管理・運営体制の充実・強化』に変更する。」への回答では「持続可能な図書館の管理・運営態勢の充実と強化」と書いてある。これが正確な表現であることを共通理解としたい。 ・唐木田、東寺方を含めた包括的な多摩市の図書館についての意見はアンケート等でも複数出ており、基本計画でもその件について触れられている。中央図書館を中枢として、多摩市の図書館ネットワークを組み立てると明記されていることから、それを前提として図書館が計画を策定していると理解している。そのように議事をすすめていることをご理解いただきたい。 ・事務局に確認だが、資料９－１、１２の基本方針④では「図書館の」が抜けているという認識でよいか。
事務局	<p>その通り、資料の誤りである。</p>

委員長	最後に、今後の進め方について事務局から説明をしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料12について、図書館協議会からもアンケートをどう活用したか明確にしてほしいという意見もあったが、なぜこうした項目が導き出されたのか、今後の市民説明を意識するとわかりづらい、と感じる。現在は計画の内容詳細をいきなり記載する形になっているが、基本的には現状と課題⇒アンケート・意見聴取⇒環境変化、時代要請、を踏まえて、次期計画を整備する必要がある。アンケート結果の分析や子ども読書計画の総括的な振り返りも行っているため、それらの抜けがない整理の仕方をして、資料12を作成してほしい。 ・配布資料の通り他市の同様の計画との比較を行った。それにより多摩市の現在の読書活動振興計画では書き込みが不十分な箇所など、いくつか課題が見えているので、それらを考慮した計画の構成を、有識者会議委員へも早めに提示してほしい。 ・いずれも配布予定資料を前日に事務局から聴取して取り急ぎまとめたものだが、作業結果を後ほど事務局に共有するので、今後の作業に活用してほしい。
委員長	議事4についてはここまでにしたい。最後にその他事項として今後の進め方について事務局から提案があると聞いているので、説明をお願いしたい。
事務局	<p>資料1-1「(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」の策定スケジュールについて(修正版)」に沿って説明。資料の太字が当初の計画から変更があった点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者会議は第二回会議が中止となった。11月の次回の開催も検討したが、今回の開催が月末であること、今回の会議内容を受けての変更があること、策定委員会も11月に予定されていること、委員の予定もあることから、委員長とも事前相談のうえ、当初の予定通り今後は12月、2月の開催としたい。開催日程についてはメール等で早期に調整したい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様の発言の機会が減って恐縮だが、委員長として事務局の提案を承った。12月までの進め方については、何らかの形で意見を出す機会は設けたいと考えている。 ・今後は12月、2月に1回ずつ開催し、策定委員会に意見を挙げていくという方法にしたいがどうか。 ・意見が特にないので、このように進めていきたい。 ・最後に何か発言はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に直接のかかわりはないが、障がい者就労訓練の場に通う場合、現状は勤務にあたらなるとされている。しかし本人は仕事として認識しているので、その点を図書館の利用資格のうえで考慮してほしい。

閉会

8月21日付け送付分

- 資料1 (仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」の策定スケジュールについて
- 資料2 多摩市立図書館 令和2~5年度電子図書館利用状況について
- 資料3 多摩市立図書館 令和5年度分野別貸出状況について
- 資料4 児童 評価指標の達成状況について(最終報告)
- 資料5-1 多摩市立図書館アンケート結果(一般)
- 資料5-2 一般アンケート自由記述欄について
- 資料5-3 アンケート回収場所別集計数
- 資料6 一般アンケートクロス集計について

- 資料7-1 子どもたちへのアンケートについて
- 資料7-2 子どもたちへのアンケート結果（小学2年生）
- 資料7-3 子どもたちへのアンケート結果（小学5年生）
- 資料7-4 子どもたちへのアンケート結果（中学2年生）
- 資料7-5 子どもたちへのアンケート結果（高校2年生）
- 資料7-6 子どもたちへのアンケート結果（大学生）
- 資料7-7 子どもたちへのアンケート結果（小～大学生）クロス集計まとめ
- 資料7-8 子どもに関わるアンケート結果（妊婦面接・両親学級・乳児健診）
- 資料7-9 子どもに関わるアンケート結果（1, 6健診・3健診）
- 資料7-10 子どもに関わるアンケート結果（児童館・学童クラブ・幼稚園保育園等）
- 資料7-11 子どもに関わるアンケート結果（学校図書館司書）
- 資料7-12 子どもに関わるアンケート結果（司書教諭）
- 資料8 骨子案概要版について
- 資料9 体系図（修正版）について
- 資料10 骨子案に対するご意見について
- 資料11 計画の名称について

10月24日付け送付分

- 資料1-1 （仮称）「第二次多摩市読書活動振興計画」の策定スケジュールについて（修正版）
- 資料8-1 骨子案概要版について（10.30版）
- 資料9-1 体系図について（10.30版）
- 資料10-1 骨子案に対するご意見について（10.30追加版）
- 資料11-1 計画の名称に対するご意見について
- 資料12 各取り組みの詳細について（10.30版）